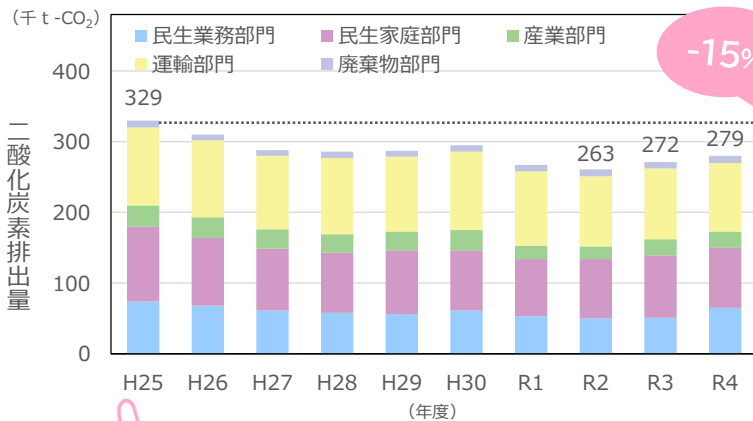


## あきる野市の温室効果ガス排出量

温室効果ガスにはいくつかの種類がありますが、あきる野市で排出されている温室効果ガスの約9割が、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)です。



令和4(2022)年度の二酸化炭素排出量は、平成25(2013)年度から15%減少しました。

二酸化炭素排出量の変化  
出典: オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」  
「多摩地域の温室効果ガス排出量(1990年度~2022年度)」から作成

再生可能エネルギーは  
二酸化炭素を排出しない  
自然のエネルギー

### 課題

二酸化炭素排出量を減らすために、電気やガソリンなどのエネルギーを使う量を減らしたり、太陽光や太陽熱、水力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用を広げていくことが大切です。気候変動によりすでに起きている影響やこれから起きる影響に適応できるまちを目指すことが必要です。

## 環境学習と仲間づくり

## 人の活動分野

環境を良くするためには、市民・事業者・市の全員が協力して取り組むことが大切です。あきる野市では、市民・事業者が、環境について学んだり、環境保全活動をする仲間を見つけたりできるように、様々な取組をしています。

例えば、自然をじっくりと体験することができるように、「小宮ふるさと自然体験学校」があります。また、「あきる野環境フェスティバル」では、子どもから大人まで、多くの人に環境保全の大切さを伝えています。

さらに、市内には環境保全を行う市民団体がたくさんありますが、メンバーの高齢化が進んでおり、次の世代へ受けついでいくことが大切です。

活動の様子



### 課題

環境について学び、体験する機会を増やすことが大切です。環境保全団体の活動を市民に分かりやすく知らせて、若い世代もより参加しやすいようにすることが必要です。

## 望ましい環境像

この計画で目指す将来の姿を設定しました。

未来まで続く色彩躍る故郷あきる野  
～みんなで守る美しく豊かな自然～



豊かな自然に囲まれたあきる野を未来に引き継いでいくためには、みんなで自然環境や生活環境の保全、資源循環や気候変動対策に取り組み、守り続けることが大切です。

## 分野別の方針

環境分野ごとに取組の指針を立てました。

### 1 自然環境分野

豊かな自然を守り育て、多様な生きものと共生した環境を次世代へ継承する

### 2 生活環境・資源循環分野

資源が循環し、清潔で快適なまちを創出する

### 3 気候変動対策分野

地球温暖化を緩和するとともに、気候変動に適応する

### 4 人の活動分野

市民・事業者が環境への理解を深め、市と協働して取組を推進する

## あきる野市の生物多様性の目標

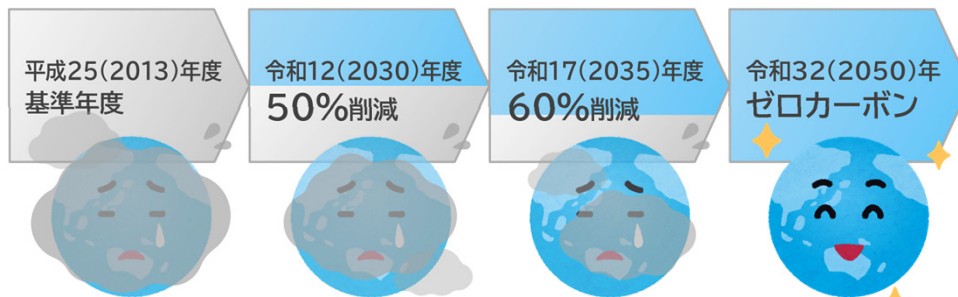
生物多様性に関わる将来の状態について目標のイメージ図を設定しました。

美しい自然と生物多様性の恵みにあふれ、その恵みを大切にしながら、みんなで守り育て伝えていくまち

生物多様性の目標イメージを11ページに掲載しました

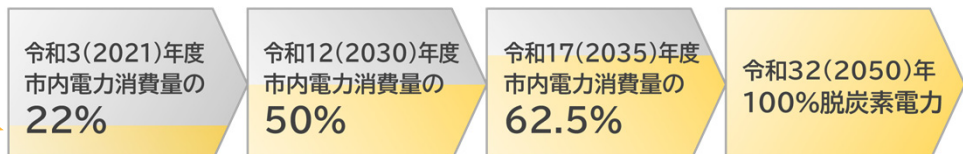
## あきる野市の気候変動対策の目標

「2050年ゼロカーボンシティ」に向けた目標を設定しました。



温室効果ガス削減目標

再生可能エネルギー導入目標





# 施策体系図

施策方針に基づいて  
施策(取組)を実施します  
※本編を参照ください

望ましい環境像

未来まで続く色彩躍る故郷あきる野くみんなで守る美しく豊かな自然く

分野	施策の柱	施策方針
1 自然環境分野	基礎情報の調査・収集	生物多様性の把握・モニタリングの継続
		生物多様性に関する情報の共有化
	生物多様性の保全	生物多様性保全の推進
		有害鳥獣対策及び外来生物対策の推進
		生態系の保全、自然再興の実現に向けた取組の推進
	生物多様性の創出	恵み豊かな緑と水の創出
		市街地における緑の保全・創出
	生物多様性の活用	地産地消の推進
		生物多様性を学ぶ、触れ合う場と機会の提供
		生態系サービスの活用検討
2 生活環境・資源循環分野	公害対策の推進	公害の防止
	資源循環型社会の構築	5Rの推進
		環境に配慮した収集・処理の推進
	清潔で快適なまちづくりの推進	清潔なまちづくり
快適で魅力あふれるまちづくり		
3 気候変動対策分野	省エネ活動の徹底	家庭生活における省エネの推進
		事業活動における省エネの推進
	再エネ導入・調達の拡大	再エネ導入の推進
		再エネ調達の推進
	移動手段の脱炭素化	移動手段の転換等
		自動車の燃料使用量の節減
	緑の活用	吸収源対策(グリーンカーボン)の推進
	気候変動への適応	農林水産業への影響への対応
		水環境・水資源への影響への対応
		自然生態系への影響への対応
自然災害への備え		
健康被害への対策		
産業・経済活動への影響への対応		
国民生活・都市生活への影響への対応		
4 人の活動分野	人材の育成	次世代を担う子ども達の育成
		後継者の育成
		あらゆる世代を対象とした普及啓発の実施
	協働体制の構築	協働体制の整備
		市民との協働の促進
		事業者との協働の促進

重点プロジェクト

あきる野市の状態を踏まえて  
特に力を入れる取組です  
※次ページで紹介します



## 自然環境分野

# 美しく豊かな自然を未来につなぐプロジェクト

里山や森林、畑や川などの自然を保全・活用し、豊かな生物多様性を未来につなげていくための取組を、地域ぐるみで進めます。また、自然と触れ合うきっかけづくりや、環境を大切にする気持ちを高めることで、自然をこわさず、長く大切にしながら、ともに暮らしていくことを進めます。

### 森林・里山管理の体制整備



### 有害鳥獣・外来種対策



### 地域での協働

#### 市民・事業者の行動の活性化



#### 観光・アウトドアにおける 環境保全

#### 自然の 魅力向上



## 生活環境・資源循環分野

# みんなで守る美しい循環のまちプロジェクト

資源が循環する持続可能な地域を目指して、「5R」の取組を進めます。また、清掃活動や、山登りなどの観光において環境を大切にする気持ちの輪を広げます。

美しい自然や街並みと、それを守るという気持ちが、あきる野市の“良いところ”となることを目指します。

### 5R

#### リフューズ

不要なものを  
買わない、  
断る



#### リデュース

コンポスト



ごみの発生を  
減らす

#### リペア

#### リユース

#### リサイクル



再生利用する



修繕して使う



くり返し使う

### 自然・街並みの美化

#### アウトドアレジャーでの 環境意識向上





## 気候変動対策分野

# エネルギーの転換でストップ地球温暖化プロジェクト

再生可能エネルギーの導入や、電力プランの切り替えを進めます。また、車などによる二酸化炭素排出量の削減に向けて、公共交通の利用を進めます。

これらの取組は、温室効果ガス排出量の削減のほかに、災害の時に電気が使えたり、<sup>じゅうたい</sup>渋滞を減らして空気の状態を良くするという効果もあります。

### 再生可能エネルギーの利用

**エネルギー利用による二酸化炭素排出量の削減**

発電・熱利用設備の導入

光熱費の削減

災害時の電源確保

電力プランの切り替え

選択!!

火力

再生可能エネルギー

### 公共交通の利用

**移動に伴う二酸化炭素排出量の削減**

電気自動車の利用環境の整備

公共交通機関の利便性向上、活用促進

大気、騒音の改善

渋滞の解消

EV



## 人の活動分野

# 環境配慮を暮らしの常識に！ビジネスの力に！プロジェクト

普段の暮らしや仕事において環境のことを考えた行動が当たり前になることを目指します。また、市民・事業者が自分から行動をするために、環境を守る活動を分かりやすく見せることで、環境を守る活動の輪を広げていきます。

### 環境保全の取組

環境に配慮した行動選択

暮らし

MYBAG

脱炭素経営

CO<sub>2</sub>

企業の森 NbS

### 気候変動への適応

暑熱環境の改善

遮熱性塗装

暮らし

グリーンカーテン

影響の把握

農作物被害

熱中症患者数

新たな品種の試作

事業活動

### 市民・事業者の環境保全活動への参加の後押し

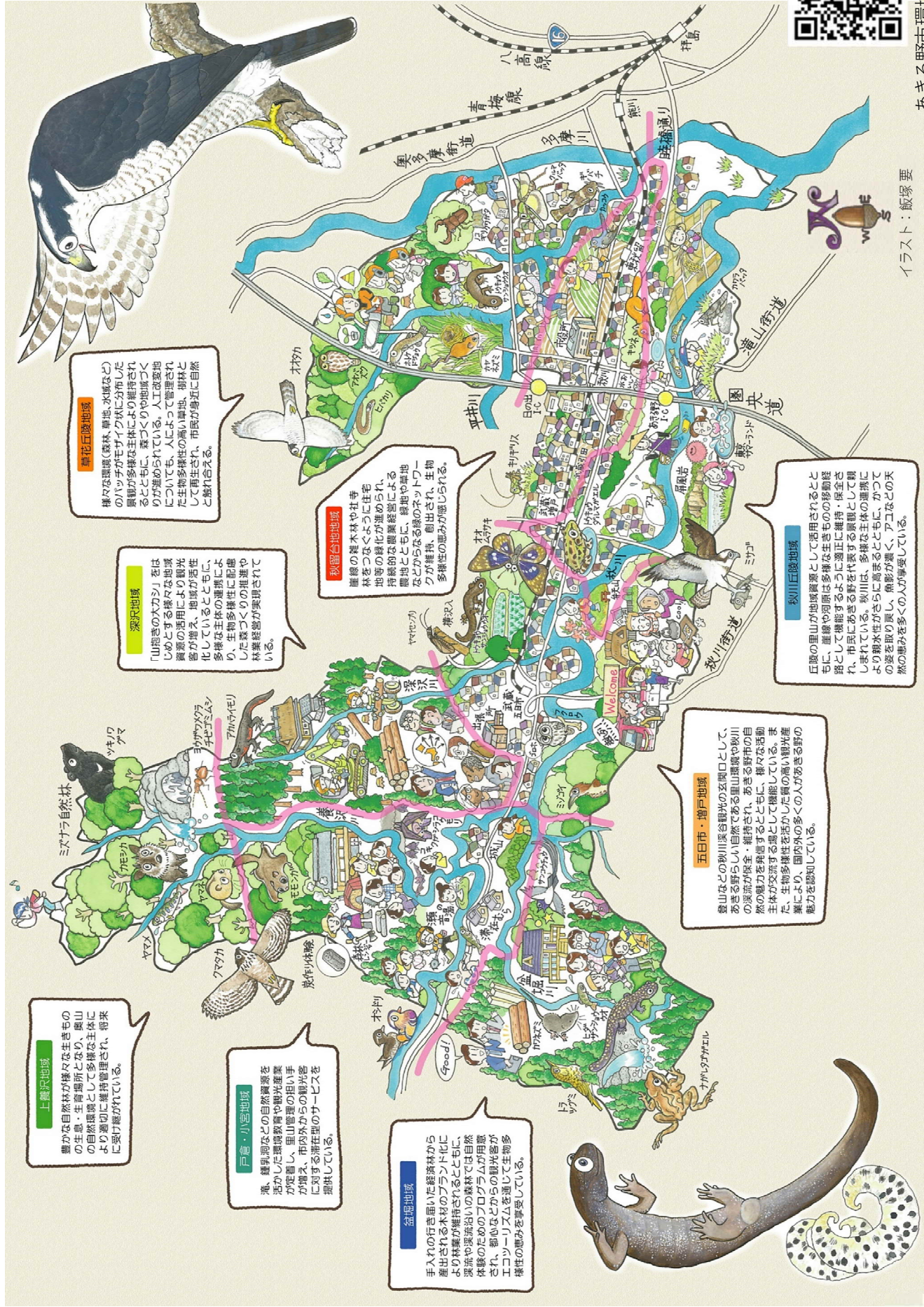
環境保全活動の紹介

生物多様性

発表

保全活動成果の発表

# 生物多様性の目標のイメージ図



**上鶴沢地域**  
豊かな自然林が様々な生きものの生息・生育場所となり、奥山の自然環境として多様な主体により適切に維持管理され、将来に受け継がれている。

**戸倉・小宮地域**  
熊、種乳駒などの自然資源を活かした環境教育や観光産業が定着し、里山管理の担い手に対する滞在型のサービスを提供している。

**益尾地域**  
手入の行き届いた経済林から産出される木材のプラント化により林業が維持されるとともに、梁床や梁流台の森林では自然体験のためのプログラムが用意され、都心などからの観光客がエコツアーリズムを通じて生物多様性の恵みを享受している。

**深沢地域**  
「山崩害の大カシ」をはじめとする様々な地域資源の活用により観光客が増え、地域が活性化している。多様な主体の連携により、生物多様性の推進や林業経営が実現されている。

**秋留台地域**  
麓線の雑木林や杉林が、林業の活性化を促すとともに、緑地や草地などからなる緑のネットワークが維持、創出され、生物多様性の恵みが感じられる。

**五丁目・増戸地域**  
登山などの秋川渓谷観光の玄関口として、あき野らしい自然である里山環境や秋川の景観が保全・維持され、あき野市の自然の魅力を発信するとともに、様々な活動主体が交流する場として機能している。また、生物多様性を活かした質の高い観光産業により、国内外の多くの人があき野の魅力を知っている。

**秋川丘陵地域**  
丘陵の里山が地産資源として活用されることにも、産物や体験は多様な生きものの移動経路として機能するよう、適正に維持・保全され、市民にあき野を代表する景観として親しまれている。秋川は、多様な主体の連携により親水性がさらに高まるとともに、かつての姿を取り戻し、角影が濃く、アユなどの天然の恵みを多くの人が享受している。

**緑花丘陵地域**  
様々な環境（森林、草地、水域など）のバッチがモザイク状に分布した景観が多様な主体により維持され、ともに、養つくりの仕組みづくりが進められている。人工遊歩道についても、人によって管理された生物多様性の高い草地、樹林として再生され、市民が身近に自然と触れ合える。



イラスト：飯塚要